

8月の農作業

令和4年8月10日 J A 福井県奥越基幹支店・奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ☆ 稲の適期刈取
- ☆ サトイモの防除・圃場管理
- ☆ ネギ・ナス・キクの病害虫防除
- ☆ 鳥獣害対策情報

気象の推移

令和4年5月から令和4年7月の3ヶ月間では、平均気温は平年並み、降雨量は平年より少なく、日照時間は平年より多く推移しました。

平均気温 (℃)		5月			6月			7月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	16.2	17.0	18.8	20.2	21.3	22.4	24.0	24.9	26.2
	令和4年	15.0	17.2	19.9	19.0	21.8	26.8	25.7	24.8	

参考：5月から7月中旬までの積算値 平年 164.8 令和4年 170.2

降水量 (mm)		5月			6月			7月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	45.1	58.8	41.0	24.1	53.2	91.0	102.0	109.4	63.1
	令和4年	13.0	27.5	39.0	35.5	9.5	26.5	91.5	132.0	

参考：5月から7月中旬までの積算値 平年 524.6 令和4年 374.5

日照時間 (時間)		5月			6月			7月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	62.3	58.2	67.7	59.1	47.9	34.0	36.2	41.3	61.7
	令和4年	81.9	34.9	90.2	66.9	49.0	76.5	59.5	24.7	

参考：5月から7月中旬までの積算値 平年 406.7 令和4年 483.6

北陸地方1ヶ月予報

予想される向こう1ヶ月の天候

向こう1ヶ月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

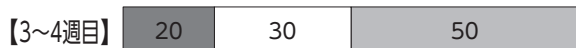
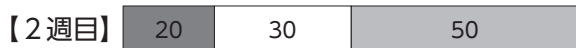
向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は高い確率60%です。2週目と3～4週目は高い確率50%です。

〈向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



〈気温経過の各階級の確率(%)〉



■ 低い (少ない) □ 平年並 ■ 高い (多い)

〈予報の対象期間〉

1ヶ月：7月30日 (土) ～ 8月29日 (月)

〈予報の対象期間〉

7月30日 (土) ～ 8月 5日 (金)

8月 6日 (土) ～ 8月12日 (金)

8月13日 (土) ～ 8月26日 (金)

水 稲

○生育状況と管理の考え方

6月下旬から降雨が続いたため中干しが十分にできていない圃場が見られます。土壌が柔らかい場合には適宜落水管理を行い、収穫時の機械作業に備えて田を固めてください（出穂期～穂揃い期には干さないようにしましょう）。

また、中干しができなかった圃場は稲の根張りが悪く、乾燥に対して非常に弱くなっています。刈取りの5日前までは間断通水を行い、品質の低下を防ぎましょう（集落営農組織においては特に注意をお願いします）。特に昨年胴割れの多かったところでは、落水時期が早くならないよう気をつけて下さい。

今年は、斑点米カメムシが多発し、県下一円に7/22に注意報が出ました。

斑点米カメムシの防除を徹底しましょう。

今 後 の 水 管 理

- (1) 間断通水により、根の活力を維持しながら、登熟と千粒重の向上を図ります。特に、元肥一発肥料を使用した圃場では、間断通水を徹底します。なお、水温上昇により稲体が弱るのを防ぐため、3日間以上の湛水は避けてください。
- (2) 台風やフェーン現象の時は、稲体から多量の水分を奪い取り、白穂・白未熟粒（シラタ）の原因になるため、事前に深水管理を行ってください。
- (3) 早期落水は、胴割米・死米・腹白米等の発生原因となるため、絶対に避けて下さい。落水のタイミングは、早生で5日前、中生で7日前、晩生で10日前を目安とします。

刈 取 予 想

現在の刈取予想は、早生の出穂期が7月12～13日頃の場合、ハナエチゼンで8月15日前後、五百万石で8月18日前後、コシヒカリの出穂期が7月29日では9月6日前後の刈取ですが、今後の天候および管理により適期刈取り日は変動致します。籾水分を測定し、胴割れにならないよう刈取判断を行って下さい。

穂軸の黄化や青籾の残存率だけで判断せずに、必ず水分計による籾水分の測定を行い、25%以下になったら、すみやかに刈取りしましょう。



胴割米について

米の胴割れは米粒の内部に亀裂が生じる現象で、精米をする際に碎米が発生し、加工・流通において大きな問題となります。

発生要因としては、出穂から約10日間の高湿や、登熟後半の乾燥と降雨による急激な水分変化が関係しています。また、過度の中干し・早期落水・乾燥等の人為的要因によっても発生します。

<対策>

- ・収穫5日前までは間断通水を継続して行いましょう。
- ・籾水分が25%以下となったら収穫を開始し、刈り遅れとならないようにしましょう。
- ・籾水分が高い・水分のばらつきが大きい時は、乾燥前に通風乾燥を行い、乾燥温度を低めに設定しましょう。
- ・籾水分の1時間当たり乾減率0.6～0.8%を目安としましょう。
- ・籾水分18%程度で4時間以上乾燥を止め、再度乾燥を行う2段乾燥を行いましょう。また、乾燥後の水分測定は、検定済手動式水分計を用いて、水分が14.5～14.8%であるか確認しましょう。
- ・青籾割合が少ないと、乾燥が進み過乾燥になるため、胴割米が発生しやすくなります。
- ・酒米は、心白があるため急激に乾燥すると胴割れしやすいため、乾燥機の温度設定をうるち米より3℃下げて乾燥してください。
- ・送風・循環を行い、籾の温度を下げてから籾摺りを行いましょう。
- ・籾摺り時のロールの隙間が狭すぎると、圧迫による胴割米が発生し、隙間が広いと2度摺りによる胴割米が発生します。

上記の対策を行い、「整粒歩合80%以上、食味値80以上」の両立を目標としましょう。

適正な乾燥調製

良品質良食味米生産の最後の仕上げです。

- (1) 過乾燥に注意し、水分14.5～14.8%に仕上げてください。また、基準を超えた高水分米は、検査規格外となります。
- (2) 籾摺り前に必ず検定済みの水分計で適正水分である事を確認してから籾摺りを行ってください。

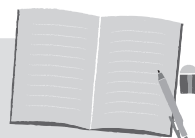
※ 水稻栽培日誌の記帳提出について

早生品種……………8月5日まで

※提出がまだの方は早急にお願いします

中・晩生品種……………8月19日まで

各支店まで
提出して下さい。



雑 穀

○生育状況と管理の考え方【そば】

(1) 排水対策の徹底

出芽の時期に、大変湿害に弱い作物です。良好な出芽と初期生育をさせるため、圃場の排水対策を徹底します。額縁排水溝を作り、排水を良くし、碎土・整地を丁寧に行って初期生育を確保しましょう。

(2) 帰化アサガオ対策

耕起前に、本田および畦畔にザクサまたはバスタを散布し、発芽している帰化アサガオを枯らしましょう（特裁の認定を受けている場合は不可）。

帰化アサガオの種子は、ソバ種子と大きさや形が似ており、収穫時に混じると、篩（ふるい）で仕分けできません。



帰化アサガオの一種 マルバルコウ

サトイモ

現在（8月1日時点）サトイモ疫病の発生は確認されていませんが、疫病が発生しやすい気候が続いています。疫病の予防防除を徹底し、草勢を維持するために適切な管理を行いましょう。

防 除

- ・これまでの状況から、疫病は9月中旬頃まで発生すると予想されます。9月中旬まではダイナモ顆粒水和剤、ランマンフロアブル、ジーファイン水和剤による予防防除を継続しましょう。
- ・台風通過後には疫病の被害が急拡大しやすくなります。被害の発生を確認した場合には、早急に「アミスター20フロアブル」を散布しましょう。

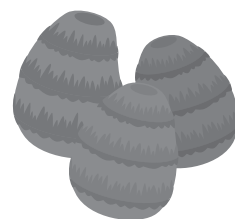


水 管 理

- ・晴天続きの時は3～4日おきに、夕方地温が下った頃に積極的に畝間灌水を行いましょう。灌水の深さは畝の半分が目安です。
- * 但し、排水が適切に行われず、長時間滞水状態になりやすい圃場では、通路の水温が上がりサトイモの根が焼け、葉焼け症状が発生しやすくなるので注意しましょう。

子ズイキ刈り

- ・本葉7枚目以降より、子芋の栄養成長が盛んになり、子ズイキが発生しますので本葉3枚までに刈込みしましょう。
- *但し、疫病発生後の子ズイキ刈りは被害の拡大を助長することになります。疫病発生後は子ズイキ刈りをしないようにお願いします。



ネギ

土寄せ

- ・軟白を確保するため、土寄せは丁寧に行い、最終土寄せは株元までしっかりと行いましょう。
- ・高温期に無理に多くの土寄せを行うと、根を傷めて葉先枯れや病害の発生を助長することにつながるため、気温の低い時間帯（理想は朝方）に株本から20～30cm以上離れたところから土寄せを行いましょう。一度の土寄せで大量に土寄せをすると生育停滞や曲がりの原因となるため注意が必要です。

排水対策

- ・降雨後、畝間に水がたまらないよう排水溝を整備し、周囲には額縁排水溝を設置しましょう。

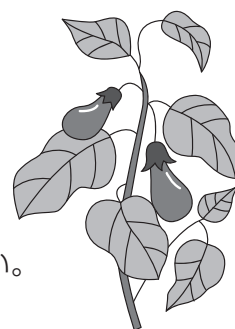
病害虫対策

- ・褐色腐敗病、軟腐病、白絹病がすでに発生しています。今後の高温によりさらに被害が拡大すると予想されます。ヨネポン水和剤、モンガリット粒剤などで発生防止に努めましょう。
- ・ネギハモグリバエ・アザミウマ類が多発しやすい時期となっています。発生始めにリーフガード顆粒水和剤、ディアナSCなどで防除を行いましょう。
- ・使用農薬の使用期限、使用回数をよく確認して農薬を使用しましょう。

ナス

灌水

- ・ツヤなし果が発生しているような圃場では、夕方から畝間灌水を行って下さい。ただし、早朝には落水するなど長時間の灌水はしないように管理して下さい。

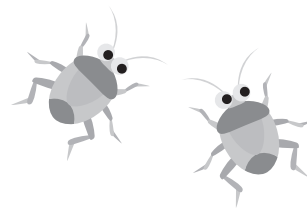


追肥

- ・8月は1週間に1回の割合で施肥を行いましょう。

病 害 虫

- ・現在、カメムシ類による被害が多い状況です。カメムシ類は圃場に定着すると同種個体を呼び寄せるフェロモンを出し、被害が止まらなくなります。圃場内での生息を確認したら、発生初期の段階で、マラソン粉剤やアルバリン顆粒水溶剤などで防除を行いましょう。
- ・うどんこ病や褐色円星病が発生しています。発生圃場ではベンレート水和剤などで防除を行いましょう。
- ・青枯病が発生し始めています。青枯病は土壌伝染以外にも、ハサミなどに付着した汁液によっても伝染します。しおれた株の管理作業は最後にし、作業後はハサミなどを消毒してください。
- ・農薬の使用期限、使用回数をよく確認して農薬を使用しましょう。



キ ク

8月は出荷作業に追われ、病虫害防除がおろそかになりがちです。また、8月後半（20日頃）には、暮れ植え用の苗作りも始まりますので、計画的に作業しましょう。

病 害 虫 情 報

管内ではアブラムシ・アザミウマが発生していますが、ダニについても今後増加が懸念されます。発生状況に応じた防除を行いましょう。

○アザミウマ

管内では葉裏に寄生するアザミウマ類が多く発生しています。銀色の斑点やカスリが出てしまうと、見栄えが悪くなってしまうため、徹底した防除をおこないましょう。

以下、農薬名右側の（ ）内の数字と記号はRACコードを示します。

- コテツフロアブル(13) ➡ 発生初期に使用。浸透移行性が無いため、かけ残しのないよう葉の表裏に十分に散布。ダニにも有効。
- アグリメック(6) ➡ アザミウマの特効薬。ダニにも登録有。

○ダニ

ダニは葉裏に生息していますので、防除はノズルを上向きで丁寧に散布します。
また、ダニを根絶するつもりで、ダニ剤だけの防除を行ってください。
抵抗性がつきやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布してください。

(卵～幼虫)

テデオン乳剤 (12D) } 孵化抑制効果有。
ニッソラン水和剤(10A) } (テデオン乳剤は効果の発現まで10日ほどかかります。)

(卵～成虫)

カネマイトフロアブル(20B) ➡ 出蕾時に散布すると葉害の恐れがあります。
マイトコーネフロアブル(20D) ➡ 成虫・幼虫に効果有。効果が出るまで4日かかります。
バロックフロアブル(10B) ➡ 卵～幼若虫に効果大。約1ヶ月残効有。
コテツとの混用で効果大。

(ダニ切り札)

ダブルフェースフロアブル(25B+21A) ➡ 即効性有。

○アブラムシ

アブラムシは葉裏と蕾周辺に多く発生しています。上からの散布と、ノズル上向きの散布を丁寧におこないましょう。

スミチオン乳剤(1B) ➡ 即効性有。予防剤として使用。
ウララ50DF(29) ➡ 浸透移行性高。効果がでるまで数日かかるため、遅効的に見えますが、害虫はすぐに吸汁ができなくなります。
コルト顆粒水和剤(9B) ➡ 浸透移行性弱。葉の裏表に十分散布しましょう。

**防除を行うときは、
必ずメガネ・マスク・手袋を
着用しましょう**

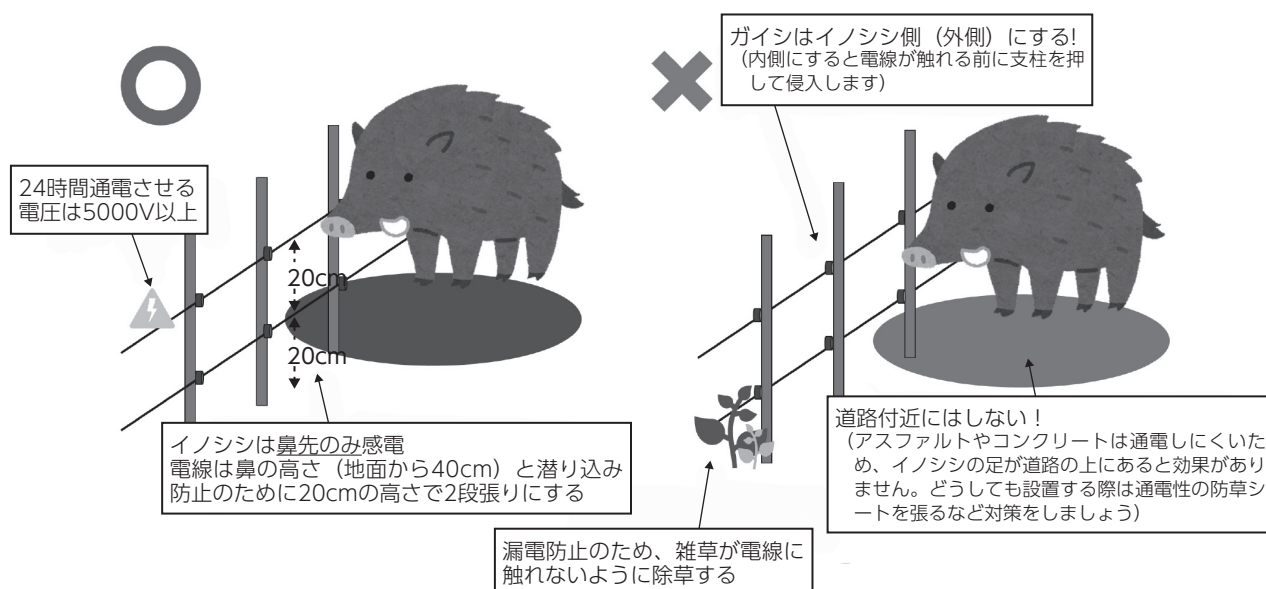


鳥獣害対策情報

水田のイノシシ対策

水田のイノシシ被害には、稲穂の食害、泥遊び（ぬたうち）や、踏み荒らしによる倒伏があります。奥越管内ではイノシシ対策として電気柵が広く活用されていますが、適切に設置していないと効果がありません。イノシシ被害が出る前に電気柵が正しく設置されているか再度確認、点検しましょう！

電気柵を設置する際はなるべく平坦な場所に設置しましょう。また、圃場付近に傾斜地があると勢いをつけて駆け下り、電気柵で止まらなかったり、斜面からジャンプして跳び込んだりして侵入する可能性があるため、傾斜地から離して設置しましょう。



地面に凸凹があるところに設置する場合は、最下段と地面との隙間を開けないように設置しましょう。20cm以上隙間があると下から潜り込みます。

